

令和2年度 長崎市自然環境調査報告書：鳥類

長崎市自然環境調査委員 ^{よしがい まさし} 吉谷 将史

1 令和2年(2020年1月1日～12月31日) 長崎市自然環境調査報告：鳥類

令和元年(昨年)までに記録された長崎市の野鳥は亜種を含め329種、令和2年に新たに観察された野鳥及び追加検討した12種を加え341種となりました。

別表に添付しました、2020年12月31日現在の長崎市鳥類目録によると、これまで長崎市にて記録された野鳥の詳細は、21目64科165属323種となり、亜種を含めた総数では341種が記録されています。日本産鳥類目録第7版において国内で記録されている野鳥は633種であり、その半数あまりが、長崎市内にて記録されていることとなります。

長崎市は日本本土の最西端に位置し、西は東シナ海を経て大陸に近く、北は対馬を経由し朝鮮半島、内蒙古、シベリア、南はトカラ列島、琉球諸島を経て台湾、フィリピン、東南アジアへと多くの渡り鳥にとっての重要な経路地となっており、観察される野鳥のほぼ半数は旅鳥ということになり迷鳥(本来の生息地から離れて稀に飛来する鳥)を含めると全体の6割は春と秋に一時的に観察される渡り鳥ということになります。一方、夏鳥(夏季に繁殖し、冬はいなくなる鳥)については10種と全体の2.9%にすぎません。これは長崎市内には標高500mを超える地域がほとんどなく夏鳥の繁殖に適した環境が少ないことが要因です。近年、オオルリ・キビタキなど日本を代表する夏鳥について長崎市内でも繁殖記録は増加傾向にあり、今後も少ないながら夏鳥の動向にも注視していきたいと考えています。また全国的に数を減らしているミゾゴイ(環境省絶滅危惧Ⅱ類、推定生息数1000羽以下)についても夏場に鳴き声の確認があります。2020年において特筆すべきは、国内での確実な繁殖事例がなく、稀な旅鳥とされているカラアカハラについて、長崎県民の森にて6月に餌をくわえて運ぶ姿(子育て中の可能性あり)が目撃されましたが、その後の大雨により繁殖に成功したか否かは不明です。参考に過去に観察したミゾゴイと巣築行動中のカラアカハラの写真を添付します。



ミゾゴイ 樺島 2014年4月(吉谷将史)



カラアカハラ 県民の森 2020年6月(伊達木薫)

2 本年新たに記録された野鳥

2020 年新たに追加、観察された野鳥は以下の 12 種

・オオアカハラ

撮影者:木村智美 2020 年 4 月 11 日 長崎市樺島

普通に見られる亜種アカハラに比べ頭部の黒色が強く、アカコッコに似る。繁殖地は千島列島、一部南西諸島でも越冬が確認されており、渡り途上に観察された。長崎市内では通常のアカハラが越冬しているほか、春と秋の渡り期に見られるが、オオアカハラの確認記録は今回が初めて。



・アオハラインソヒヨドリ

撮影者:林田博 2020 年 4 月 23 日 長崎市高浜

全国の海岸域に広く分布するインソヒヨドリに比べお腹の部分が青いことで区別できる。ヨーロッパからアジアまで広く分布する。日本で見られるインソヒヨドリと違い、標高 2000m から 4000m の山岳地帯に主に棲息する。日本では南西諸島などで稀に見られる迷鳥。



・カオジロツメナガセキレイ

撮影者:野中明彦 2020 年 5 月 14 日 長崎市樺島

ツメナガセキレイについては北海道で繁殖するツメナガセキレイの他、日本では5亜種が記録されている。今回のカオジロツメナガセキレイの発見で長崎市野母崎地区では日本で記録のあるツメナガセキレイが全て見られたことになる。



・オオトウゾクカモメ

撮影者:木村智美 2020 年 6 月 3 日 長崎市樺島

南極大陸で繁殖し、夏はアラスカまで移動、地球を縦断する大型の鳥。移動中の個体が日本周辺の洋上でもしばしば目撃されるが、沿岸部で見られることは稀。長崎県内では 4 例目となり、長崎市では初記録。それとわかる写真が撮影されたのは極めて貴重な記録である。



・セグロアジサシ

撮影者:木村智美 2020年7月2日 長崎市三瀬付近
南洋の海に広く棲息している。日本では小笠原諸島などで夏鳥として繁殖する。本土域では台風や低気圧の通過後などに稀に見られる。



・アカアシカツオドリ

撮影者:木村智美 2020年7月22日 長崎港内
日本では夏鳥として八重山諸島の一部や硫黄島付近に分布。本土域でも稀に見られる。長崎県内でも五島近海にて記録が数例ある。今回の記録は五島福江航路のフェリーにて船上に降りた個体を長崎港内から撮影した。神の島方面に飛び去ったとのことだが、翌日探すも見つからず。
近年、南洋の海鳥の記録が増えてきている。



・カワリシロハラミズナギドリ

撮影者:福嶋玲子 2020年9月14日
台風10号の通過後、長崎市竿の浦町にて保護。
その後、諫早市の動物救護センターに運び込まれました。
発見当初はシロハラミズナギドリの類ではないかとのことで学識経験豊富な方の意見を賜り、カワリシロハラミズナギドリであることが判明。回復して放鳥できることを期待しましたが10月3日、落命。貴重な検体として扱うことになった。



・ハシグロヒタキ

撮影者:吉谷将史 2020年9月23日 長崎市脇岬
アフリカ大陸中部で越冬。夏季はユーラシア大陸、アラスカ、グリーンランドまで幅広く分布している。日本では秋に南へ移動中の個体が各地で観察されており、南西諸島などでは春の渡り期の記録もある。長崎市においては初記録。



・イワバホオジロ

撮影者：西星哉 2020 年 10 月 2 日 長崎市高浜

本来の棲息地は中央アジアで繁殖し、冬はインド東部などに移動する。日本では 1997 年 10 月に石川県舩倉島にて初記録以降、日本海側の島嶼や鹿児島県トカラ列島などで数例の記録がある。日本本土域での記録はおそらく初めて。



・オオヒシクイ

撮影者：吉谷将史 2020 年 10 月 25 日 長崎市野母崎

長崎市内にはガン類やツル類が越冬するために適した場所はなく、秋の渡り期などに一時避難のため舞い降りた個体が稀に観察される程度。亜種ヒシクイについては 2013 年 1 月に神の島にて記録あり。今回の個体は首が長く、額と嘴基部に段差がないことから亜種オオヒシクイとしました。

オオヒシクイについては 2020 年 1 月雲仙諏訪の池でも 1 羽確認されています。



・オオコノハズク

撮影者：柿田周造 撮影年月日不明 長崎市日吉

1980 年(昭和 55 年発行)の「長崎県の野鳥」において、故柿田周造氏が日吉青年の家にて撮影された画像が掲載されています。残念ながら柿田氏の記録については現存しておらず、野鳥の会にて経緯を調べましたが当時の経緯、またその後の長崎市内におけるオオコノハズクの記録は得られていません。日吉地区周辺の森、その他オオコノハズクが棲息している可能性のある市内の山間部では環境の変化もなく現在も少数が棲息しているものと考え、目録に追加しました。



・オウチュウカッコウ

2020 年 5 月 22 日、長崎市樺島において複数の観察者が鳴き声を確認。同時期に長崎県対馬では写真撮影された例もあり、今回目録に追加掲載します。

また、12 月 20 日に、鳥類標識調査員である中村氏より長崎市樺島にてアカゲラの目視確認記録の報告がありましたので検討種として追加します。

3 2020 年の主な観察記録について

・ロクショウヒタキ

撮影者: 吉谷将史 2020 年 1 月 16 日 長崎市脇岬

ロクショウヒタキについては、2019 年 11 月に長崎市初記録として昨年の年次報告でもとりあげています。同じ個体なのかは不明ですが、1 月に同じく野母崎地区にて確認されました。



・コゲンカンドリ

撮影者: 大石智榮子 2020 年 2 月 4 日 長崎市神の島

コゲンカンドリについては、2019 年 9 月から 10 月に野母崎周辺海域において 2 羽が確認されました。同一個体なのかは不明ですが 2 月から 3 月末に神の島にて越冬している個体が同じく 2 羽確認されています。



・ヤツガシラ

撮影者: 木村智美 2020 年 2 月 4 日 長崎市高浜

「春告げ鳥」として、長崎市に飛来するヤツガシラですが、暦にあわせるように節分の時期に第 1 号が飛来。

通常の飛来時期は 2 月下旬から 3 月初旬が多く、本年は少し早い記録となりました。



・カラスバト

撮影者: 木村智美 2020 年 2 月 14 日 長崎市樺島

カラスバトについては野母崎地区において周年の観察記録がありますが、繁殖の有無については不明のままです。秋に若鳥が確認できるため、おそらく少数が繁殖しているものと推測しています。



・カラアカハラ

撮影者: 松本俊孝 2020年3月25日 長崎市樺島

2020年はカラアカハラの渡りが近年になく多い年でした。

3月下旬の初飛来から5月初旬まで野母崎地区において観察されています。また6月の記録もあり、今後長崎市内にて繁殖の可能性も期待されます。



・ツバメチドリ

撮影者: 吉谷将史 2020年3月27日 長崎市脇岬

ツバメチドリについては3月末から5月中旬まで稀に観察でき、夏場に幼鳥の確認記録もあるのですが、長崎市内での繁殖記録は未だなし。近年、日本各地で繁殖記録があり、繁殖が期待される種です。



・リュウキュウキビタキ

撮影者: 林田博 2020年4月17日 長崎市樺島

キビタキの亜種で屋久島、奄美群島、琉球諸島に留鳥として棲息。一部渡りをするようで春の野母崎にて近年、観察機会が増えている。通常のキビタキとは背面のオリーブ褐色や腹面のレモンイエローなどで識別できる。

検討種に挙げているキムネビタキについてはリュウキュウキビタキの可能性もある。



・ズグロチャキンチョウ(♀)

撮影者: 吉谷将史 2020年4月22日 長崎市高浜

近年長崎市においては毎年、春の渡り期の観察機会に恵まれているが、本来日本には飛来する可能性が低い稀な旅鳥。

似ているチャキンチョウについては、長崎市における確実な記録はなく、今後もチャキンチョウと併せて観察機会を重ねたい鳥である。



・アムールムシクイ

撮影者：林田博 2020年4月23日 長崎市樺島

日本産鳥類目録第7版においては検討種とされているが、樺島地区においては2015年以降毎年確認されている。形態はエゾムシクイと酷似しており野外識別は極めて困難だが、鳴き声の違いから判断できる。次回の鳥類目録では、新たに追加される可能性が高い。



・カラフトムシクイ

撮影者：林田博 2020年4月29日 長崎市樺島

以前から鳴き声にて確認されているムシクイ類だが、体長12cm弱のうえ、木々の小枝をすばしっこく移動するため個体確認の難しい野鳥。長崎市においてそれとわかる撮影は極めて貴重な記録。



・コマドリ

撮影者：服部武比古 2020年4月24日 長崎市稲佐山

コマドリについては主に春の渡り期に野母崎地区にて多数観察されるが、市内稲佐山での観察記録は今回が初めて。市内の山間部においては他地区にも飛来している可能性が示唆される。



・シマアオジ(♂若鳥)

撮影者：吉谷将史 2020年5月5日 長崎市高浜

以前は北海道のいたるところで見られ普通種だったシマアオジですが、現在国内で繁殖が確認されているのはわずかに10数番と言われています。シベリアでも急速に数を減らしており、近い将来の絶滅が最も危惧されている種。



・オガワコマドリ

撮影者：木村智美 2020年5月10日 長崎市高浜

日本各地に少ない冬鳥として記録があります。長崎市においては2016年4月に初記録されて以来、2度目の記録。



・コウライウグイス

撮影者：峰隆一 2020年5月13日 長崎市樺島

春の渡り期、毎年確認できる野鳥ですが、撮影機会の極めて難しい野鳥。「ミャー」という猫に似た特徴的な鳴き声で存在に気付かされる野鳥です。



・チゴモズ

撮影者：吉谷将史 2020年5月17日 長崎市樺島

戦前(1940年代)は東京近郊の住宅地に近い樹林帯でも見られたモズの仲間で、当時の図鑑では普通に見られる種として掲載されています。近年減少傾向の著しい野鳥で、国内での絶滅が最も危惧されています。長崎市内での繁殖記録はなく、春の渡り期に稀に見かける程度です。



・アカハラダカ

撮影者：服部武比古 2020年5月21日 長崎市樺島

秋(9月)の渡り期には大群をなして渡る姿が市民の森や稲佐山からも観察できるアカハラダカ。春の渡りは大陸沿いを行くのか長崎市で観察できるのは稀。時折、羽休めをしている個体に出会える程度です。



・カラシラサギ

撮影者: 木村智美 2020年6月15日 長崎市神の島
朝鮮半島北西沿岸と中国南東部沿岸でのみ棲息する世界的希少種。長崎市でも過去に数例の記録があるが、いずれも4～5月の記録で、6月に入ってから記録は今回が初めて。



・リュウキュウサンショウクイ(若鳥)

撮影者: 吉谷将史 2020年7月13日 市民の森
亜種リュウキュウサンショウクイについては、2010年ころから長崎市内においても観察されるようになり、今では年間を通して観察できる留鳥となっています。繁殖記録についての詳細なデータは持ち合わせておりませんが、幼羽を残す個体にこの時期出会うということは、市民の森において繁殖していると考えていいように思います。



・コムシクイ

撮影者: 吉谷将史 2020年9月17日 長崎市春木町
以前はメボソムシクイの亜種とされていましたが、最近の研究により別種としてあつかわれているムシクイ類。秋の渡り期に長崎市内でも観察されますが、鳴き声による識別が必要。この個体は鳴き声にて気付き、自宅裏山に飛来したものを観察時撮影したもの。



・シマアオジ

撮影者: 松本俊孝 2020年10月6日 長崎市野母崎
シマアオジについては5月の若鳥でもふれていますが、近年秋の渡り期においても、極稀に飛来が確認できる事は野鳥観察を続ける私達にとって嬉しい限りです。この個体については雌なのか1年目の雄なのか判断できませんが、今年北海道にて生まれた若鳥であってほしいものです。



・ハイタカ

撮影者: 吉谷将史 2020年10月14日 長崎市権現山
10月も中旬になると冬鳥の飛来が確認できるようになります。



・オシドリ

撮影者: 吉谷将史 2020年10月25日 長崎市黒浜ダム
長崎県の県鳥に指定されているオシドリ。雄の姿は大変優美で私達を楽しませてくれます。10月中旬より飛来が確認されるようになり、川原大池は越冬地として広く知られています。



・ツリスガラ

撮影者: 吉谷将史 2020年10月28日 長崎市高浜
かつては数少ない旅鳥でしたが、2000年以降は西日本各地の葦原で冬場に見られるようになりました。長崎市においては棲息好適地が少ないこともあり、冬場に定着して見られることはなく、移動中の個体に時折出会える程度です。近隣の諫早干拓周辺では冬場に見ることが出来ます。



・コジュリン(冬羽)

撮影者: 木村智美 2020年11月14日 長崎市高浜
コジュリンについては日本各地で局所的に繁殖しており、九州では阿蘇地方に飛来する個体群が有名です。長崎県内では記録の少ない野鳥で、長崎市においては今回が2例目の記録です。国内においても冬羽の記録は少なく、貴重な記録です。



・トモエガモ(♀)

撮影者:木村智美 2020年11月24日 長崎市高浜
トモエガモについては2000年代初頭には世界的に数を減らしているカモ類でしたが近年は回復傾向にあります。長崎市においては冬場に定着して見られることはなく、初冬の移動時期や3月の退去時期に飛来が確認される程度です。



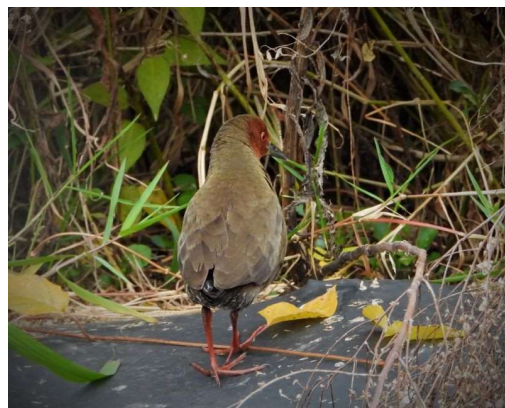
・カササギ

撮影者:岩下正幸 2020年12月6日 長崎市琴海
佐賀県の県鳥であるカササギですが、元をたどれば朝鮮からの移入種が定着したとされるのが通説です。長崎県内では大村、諫早などでは留鳥として見受けられますが長崎市においては、時折観察される程度で定着はしていないようです。



・ヒクイナ

撮影者:大石智榮子 2020年12月31日 長崎市神の島
水辺の鳥の棲息環境の少ない長崎市にあって、神の島下水処理場内にあるビオトープは水鳥達にとって貴重なオアシスとなっていることは、これまでの観察事例から明らかですが、全国的に数を減らし、準絶滅危惧種に指定されているヒクイナが棲息繁殖していることから水辺の鳥達にとって貴重な環境資源であることがうかがい知れます。



令和2年度、長崎市自然環境調査報告書作成に辺り、ご協力を賜りました、長崎県野鳥の会の会員並びに、長崎大学環境科学部の学生さん各位、また野鳥愛好家の方々にこの場をお借りして熱くお礼申し上げます。

また、この報告書を通して、長崎市内に数多くの野鳥が飛来していることを市民の皆さまに知っていただけると有り難いです。

「Today Birds Tomorrow Man」 野鳥を見つめることで、私達にとっても住みやすい長崎市の未来を創造できることに少なからず貢献できれば幸いに存じます。

長崎市鳥類目録2020年.12月31日現在

日本鳥類目録改定第7版の配列による

目	科	属	種・亜種	留鳥	夏鳥	冬鳥	旅鳥	迷鳥	備考
キジ目	キジ科	ウズラ属	1 ウズラ				○		1例
		ヤマドリ属	2 アカヤマドリ	○					
		キジ属	3 キュウシュウキジ	○					
カモ目	カモ科	マガン属	4 ヒシクイ			○			
			5 オオヒシクイ				○		2020年10月25日
		ツクシガモ属	6 ツクシガモ			○			
		オシドリ属	7 オシドリ			○			越夏例あり
		マガモ属	8 オカヨシガモ			○			
			9 ヨシガモ			○			
			10 ヒドリガモ			○			
			11 マガモ			○			
			12 カルガモ	○					
			13 ハシビロガモ			○			
			14 オナガガモ			○			
			15 シマアジ				○		
			16 トモエガモ			○			
			17 コガモ			○			
		アカハシハジロ属	18 アカハシハジロ					○	時津町中山ダムから飛来
		スズガモ属	19 ホシハジロ			○			
			20 キンクロハジロ			○			
			21 スズガモ			○			
		ホオジロガモ属	22 ホオジロガモ			○			
		ウミアイサ属	23 カワアイサ			○			
			24 ウミアイサ			○			
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ属	25 カイツブリ	○					
		カンムリカイツブリ属	26 カンムリカイツブリ			○			
			27 ハジロカイツブリ			○			
ハト目	ハト科	カワラバト属	28 カラスバト	○					樺島他離島
		キジバト属	29 キジバト	○					
			30 ベニバト				○		
		アオバト属	31 アオバト			○			
アビ目	アビ科	アビ属	32 アビ			○			
			33 オオハム			○			
			34 シロエリオオハム			○			
ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	シロハラミズナギドリ属	35 カワリシロハラミズナギドリ					○	2020. 9. 10
		オオミズナギドリ属	36 オオミズナギドリ				○		
		ハイロミズナギドリ属	37 ハシボソミズナギドリ				○		
		アナドリ属	38 アナドリ					○	2015. 9. 2三ツ瀬
コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ属	39 コウノトリ				○		2例
カツオドリ目	ゲンカンドリ科	ゲンカンドリ属	40 ヨゲンカンドリ					○	2019. 9. 30
	カツオドリ科	カツオドリ属	41 アオツラカツオドリ					○	2019. 7. 31
			42 アカアシカツオドリ					○	2020年7月23日
			43 カツオドリ			○			ほぼ周年の記録あり
	ウ科	ウ属	44 ヒメウ			○			
			45 カワウ	○					
			46 ウミウ			○			
			47 ヨシゴイ				○		
ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ属	48 オオヨシゴイ				○		一例
			49 ミゾゴイ				○		
		ミゾゴイ属	50 ミゾゴイ				○		
		ゴイサギ属	51 ゴイサギ	○					
		ササゴイ属	52 ササゴイ				○		
		アカガシラサギ属	53 アカガシラサギ				○		越冬例あり
		アマサギ属	54 アマサギ				○		
		アオサギ属	55 アオサギ	○					
			56 チュウダイサギ	○					
		コサギ属	57 チュウサギ	○					ほぼ周年
			コサギ	○					

	トキ科	ブロンズトキ属 ヘラサギ属	58	クロサギ	○						
			59	カラシラサギ				○			
			60	ブロンズトキ					○		
			61	クロツラヘラサギ				○			1例
ツル目	ツル科	ツル属	62	ソデグロツル					○		2016. 11. 24
			63	マナヅル				○			
			64	クロヅル				○			2016. 3. 28
			65	ナベヅル				○			
			66	クイナ			○				
	クイナ科	クイナ属	67	シロハラクイナ				○			
		シロハラクイナ属	68	ヒクイナ	○						
		ヒメクイナ属	69	バン	○						
		バン属	70	ツルクイナ					○		2017. 10. 9
		ツルクイナ属	71	オオバン			○				
カッコウ目	カッコウ科	オオバン属	72	バンケン					○		2017. 5. 13
		バンケン属	73	カンムリカッコウ					○		2017. 5. 6
		カンムリカッコウ属	74	ヒメカッコウ					○		2017. 4. 8
		ヒメカッコウ属	75	オウチュウカッコウ					○		2020年5月22日
		オウチュウカッコウ属	76	オオジュウイチ					○		2016. 5. 5
		ジュウイチ属	77	ジュウイチ				○			
		カッコウ属	78	ホトギス		○					
			79	セグロカッコウ				○			
			80	ツツドリ				○			
			81	カッコウ				○			
			82	ヨタカ				○			
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ属	83	ハリオアマツバメ				○			
アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ属	84	アマツバメ				○			
		アマツバメ属	85	ヒメアマツバメ				○			
			86	タゲリ				○			
チドリ目	チドリ科	タゲリ属	87	ケリ				○			2例
			88	ムナグロ				○			
		ムナグロ属	89	ダイゼン				○			
			90	コチドリ		○					
		チドリ属	91	シロチドリ				○			
			92	メダイチドリ				○			
			93	オオチドリ				○			
			94	ミヤコドリ					○		2018. 10. 17
	ミヤコドリ科	ミヤコドリ族	95	セイタカシギ				○			
	セイタカシギ科	セイタカシギ属	96	ヤマシギ			○				
	シギ科	ヤマシギ属	97	アオシギ			○				2例
		タシギ属	98	チュウジシギ				○			
			99	タシギ			○				
			100	オグロシギ				○			1例
		オグロシギ属	101	コシャクシギ				○			
			102	チュウシャクシギ				○			
			103	ホウロクシギ				○			
		ダイシャクシギ属	104	アカアシシギ				○			
			105	コアオアシシギ				○			
			106	アオアシシギ				○			
			107	クサシギ				○			
		クサシギ属	108	タカブシギ				○			
			109	キアシシギ				○			
			110	ソリハシシギ				○			
			111	イソシギ	○						
		キョウジョシギ属	112	キョウジョシギ				○			
			113	トウネン				○			
			114	オジロトウネン				○			
			115	ヒバリシギ				○			
			116	ウズラシギ				○			
	オバシギ属										

			117	ハマシギ				○		
		エリマキシギ属	118	エリマキシギ				○		
		ヒレアシシギ属	119	アカエリヒレアシシギ				○		
			120	ハイロヒレアシシギ				○		
	レンカク科	レンカク属	121	レンカク					○	1例
	ツバメチドリ科	ツバメチドリ属	122	ツバメチドリ				○		
	カモメ科	ミツユビカモメ属	123	ミツユビカモメ			○			
			124	ユリカモメ			○			
		カモメ属	125	ズグロカモメ			○			
			126	ウミネコ	○					
			127	シロカモメ			○			1例
			128	セグロカモメ			○			
			129	キアシセグロカモメ			○			
			130	オオセグロカモメ			○			
			131	ホイグリンカモメ			○			
			132	ニシセグロカモメ			○			
		アジサシ属	133	オニアジサシ				○		2019.7.5
			134	セグロアジサシ				○		2020.7.2
			135	ベニアジサシ				○		
			136	アジサシ				○		
		クロハラアジサシ属	137	クロハラアジサシ				○		
			138	ハジロクロハラアジサシ				○		
	トウゾクカモメ科	トウゾクカモメ属	139	オオトウゾクカモメ				○		2020年6月3日
			140	トウゾクカモメ				○		
	ウミスズメ科	ウミスズメ属	141	ウミスズメ			○			2例
			142	カンムリウミスズメ			○			
		ウトウ属	143	ウトウ			○			1例
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ属	144	ミサゴ	○					
	タカ科	ハチクマ属	145	ハチクマ				○		
		トビ属	146	トビ	○					
		オジロワシ属	147	オオワシ				○		1986年1月の古い記録
		チュウヒ属	148	ハイロチュウヒ				○		
		ハイタカ属	149	アカハラダカ				○		
			150	ツミ				○		
			151	ハイタカ			○			
			152	オオタカ			○			
		サシバ属	153	サシバ				○		
フクロウ目	フクロウ科	コノハズク属	155	オオコノハズク	○					昭和53年「長崎県の野鳥」より
			156	コノハズク				○		
		フクロウ属	157	キュウシュウフクロウ	○					
			158	アオバズク		○				
サイチョウ目	ヤツガシラ科	ヤツガシラ属	159	コムミズク				○		1例
			160	ヤツガシラ				○		冬季の記録アリ
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン属	161	アカショウビン		○				
			162	ヤマショウビン				○		
		カワセミ属	163	カワセミ	○					
		ヤマセミ属	164	ヤマセミ				○		
キツツキ目	キツツキ科	ブッポウソウ属	165	ブッポウソウ				○		
		アリスイ属	166	アリスイ			○			
		アカゲラ属	167	キュウシュウコゲラ	○					
		アオゲラ属	168	カゴシマアオゲラ	○					
ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ属	169	ヒメチョウゲンボウ					○	
			170	チョウゲンボウ			○			
			171	アカアシチョウゲンボウ				○		2例
			172	チゴハヤブサ				○		
			173	ハヤブサ	○					
非スズメ目 20目	34科	97属	166		25	4	48	74	22	173
	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ属	174	ヤイロチョウ		○				

サンショウクイ科	サンショウクイ属	175	サンショウクイ				○		
		176	リュウキュウサンショウクイ	○					近年長崎市に進出している
コウライウグイス科	コウライウグイス属	177	コウライウグイス				○		
オウチュウ科	オウチュウ属	178	オウチュウ				○		
		179	ハイロオウチュウ				○		
カササギヒタキ科	サンコウチョウ属	180	サンコウチョウ		○				
モズ科	モズ属	181	チゴモズ				○		
		182	モズ	○					
		183	シマアカモズ				○		
		184	アカモズ				○		
		185	カラアカモズ				○		
		186	タカサゴモズ					○	2017. 9. 30
カラス科	カケス属	187	カケス	○					
	カササギ属	188	カササギ	○					稀
	カラス属	189	ミヤマガラス			○			
		190	ハシボソガラス	○					
		191	ハシブトガラス	○					
キクイタダキ科	キクイタダキ属	192	キクイタダキ			○			
ツリスガラ科	ツリスガラ属	193	ツリスガラ			○			
シジュウカラ科	コガラ属	194	ヤマガラ	○					
	ヒガラ属	195	ヒガラ					○	
		196	キバラガラ					○	2018. 3. 14川原大池
	シジュウカラ属	197	シジュウカラ	○					
	ヒメコウテンシ属	198	ヒメコウテンシ				○		
ヒバリ科	ヒバリ属	199	ヒバリ	○					神ノ島では唯一留鳥
ツバメ科	ショウドウツバメ属	200	ショウドウツバメ				○		
	ツバメ属	201	アカハラツバメ				○		
		202	ツバメ		○				
		203	コシアカツバメ		○				
	イワツバメ属	204	イワツバメ	○					
ヒヨドリ科	シロガシラ属	205	シロガシラ					○	
	ヒヨドリ属	206	ヒヨドリ	○					
ウグイス科	ウグイス属	207	チョウセンウグイス					○	
		208	ウグイス	○					
	ヤブサメ属	209	ヤブサメ	○					
エナガ科	エナガ属	210	キュウシュウエナガ	○					
ムシクイ科	ムシクイ属	211	チフチャフ					○	2017. 5. 3
		212	ムジセッカ				○		
		213	カラフトムジセッカ					○	
		214	カラフトムシクイ					○	
		215	キマユムシクイ				○		
		216	コムシクイ				○		
		217	オオムシクイ				○		
		218	メボソムシクイ				○		
		219	エゾムシクイ				○		
		220	アムールムシクイ				○		
		221	センダイムシクイ				○		
		222	イイジマムシクイ					○	2019. 4. 8
		223	メジロ	○					
メジロ科	メジロ属	224	チョウセンメジロ					○	2016. 10. 15
センニュウ科	センニュウ属	225	マキノセンニュウ				○		
		226	シマセンニュウ				○		
		227	ウチヤマセンニュウ		○				
		228	エゾセンニュウ				○		
ヨシキリ科	ヨシキリ属	229	オオヨシキリ				○		
		230	コヨシキリ				○		
		231	ハシブトオオヨシキリ					○	
セツカ科	セツカ属	232	セツカ	○					
ハシバシヤク科	ハシバシヤク属	233	キレンジャク			○			1例

スズメ目

レンナンヤ科	レンナンヤ属	234	ヒレンジャク			○			
ミソサザイ科	ミソサザイ属	235	ミソサザイ			○			
ムクドリ科	ムクドリ属	236	ギンムクドリ				○		冬季の記録あり
		237	ムクドリ	○					
	コムクドリ属	238	コムクドリ				○		
	カラムクドリ属	239	カラムクドリ				○		不定期な渡来あり
	バライロムクドリ属	240	バライロムクドリ					○	2019. 5. 15
カワガラス科	カワガラス属	241	ホシムクドリ				○		
ヒタキ科	トラツグミ属	242	カワガラス	○					周年の記録無し
		243	マミジロ				○		
	ツグミ属	244	トラツグミ			○			
		245	カラアカハラ				○		
		246	クロツグミ				○		
		247	クロウタドリ				○		
		248	マミチャジナイ				○		稀に越冬個体あり
		249	シロハラ			○			
		250	アカハラ				○		主に旅鳥
		251	オオアカハラ						2020. 4. 11
		252	ノドアカツグミ					○	
		253	ツグミ			○			
		254	ハチジョウツグミ			○			
	ノゴマ属	255	コマドリ				○		冬季の記録あり
		256	アカヒゲ					○	
		257	オガワコマドリ					○	2016.4.9
		258	ノゴマ				○		
		259	コルリ				○		
		260	シマゴマ				○		冬季の記録あり
	ルリビタキ属	261	ルリビタキ			○			
	ジョウビタキ属	262	クロジョウビタキ					○	2010.4長崎県初記録
		263	ジョウビタキ			○			
	カワビタキ族	264	カワビタキ					○	2018. 10.31
	ノビタキ属	265	ノビタキ				○		
		266	ヤマザキヒタキ					○	2017. 4. 29
	サバクヒタキ族	267	イナバヒタキ					○	2019. 4. 25
		268	ハシグロヒタキ					○	2020年9月22日
	イソヒヨドリ属	269	アオハライソヒヨドリ					○	2020年4月23日
		270	イソヒヨドリ	○					
	サメビタキ属	271	ヒメイソヒヨ					○	2019. 5. 22
		272	エゾビタキ				○		
		273	サメビタキ				○		
		274	コサメビタキ				○		
		275	ミヤマヒタキ				○		
	キビタキ属	276	マミジロキビタキ				○		
		277	キビタキ				○		
		278	リュウキュウキビタキ					○	
		279	ムギマキ				○		
		280	オジロビタキ				○		2016. 5. 11
	オオルリ属	281	ニシオジロビタキ			○			
		282	オオルリ		○				
	アイイロヒタキ属	283	ロクショウヒタキ					○	2019. 11. 12
イワヒバリ科	カヤクグリ属	284	カヤクグリ			○			
スズメ科	スズメ属	285	ニューナイスズメ				○		
		286	スズメ	○					
	イワミセキレイ属	287	イワミセキレイ				○		
		288	シベリアツメナガセキレイ				○		
		289	カオジロツメナガセキレイ					○	2020年5月14日
		290	キタツメナガセキレイ				○		
		291	マミジロツメナガセキレイ				○		
		292	ロシアツメナガセキレイ					○	日本初記録 2014. 5. 4

	セキレイ科	セキレイ属	293	ツメナガセキレイ				○		
			294	キガシラセキレイ				○		
			295	キセキレイ	○					
			296	ニシシベリアハクセキレイ				○		2018. 03. 28
			297	シベリアハクセキレイ				○		
			298	タイワンハクセキレイ				○		
			299	ハクセキレイ				○		
			300	ホオジロハクセキレイ				○		
			301	ペルシャハクセキレイ					○	日本初記録 2012. 4. 2
	タヒバリ属		302	セグロセキレイ	○					
			303	マミジロタヒバリ				○		
			304	ヨーロッパビンズイ				○		
			305	ビンズイ			○			
			306	ムネアカタヒバリ				○		
			307	タヒバリ			○			
			308	アトリ			○			
	アトリ科	アトリ属	309	オオカワラヒワ			○			
			310	カワラヒワ	○					
		マヒワ属	311	マヒワ			○			
			312	ハギマシコ			○			
		ハギマシコ属	313	ベニマシコ			○			
			314	アカマシコ				○		
		オオマシコ属	315	イスカ					○	
			316	アカウソ			○			
		ウソ属	317	ウソ			○			
			318	シメ			○			
		シメ属	319	コイカル				○		
			320	イカル			○			
	ホオジロ科	ホオジロ属	321	シラガホオジロ					○	2019. 10. 31
			322	ホオジロ	○					
			323	イワバホオジロ					○	2020年10月2日
			324	シロハラホオジロ				○		
			325	ホオアカ			○			
			326	コホオアカ				○		
			327	キマユホオジロ				○		
			328	カシラダカ			○			
			329	ミヤマホオジロ			○			
			330	シマアオジ				○		
			331	シマノジコ				○		
			332	ズグロチャキンチョウ				○		
			333	ノジコ				○		
			334	シベリアアオジ				○		
			335	アオジ			○			
			336	クロジ			○			
			337	シベリアジュリン				○		
			338	コジュリン					○	2018. 10. 30
			339	オオジュリン			○			
		ミヤマシトド族	340	キガシラシトド					○	2019. 5. 5
			341	サバンナシトド					○	2016. 4. 19
スズメ目	30科	68属	163		24	6	31	73	33	167
合計21目	64科	165属	340種		49	10	79	147	55	340
* 種の総数については亜種が含まれており、 亜種を覗く合計は323種。				長崎市%	14.4%	2.9%	23. 2%	43.2%	16.2%	
				全国	21.5%	13.7%	23.9%	18.2%	22.8%	

外来種

目	科	属	No	種・亜種	留鳥	夏鳥	冬鳥	旅鳥	迷鳥	備考
キジ目	キジ科	コジュケイ属	1	コジュケイ	○					
カモ目	カモ科	ハクチョウ属	2	コブハクチョウ	○					
ハト目	ハト科	カワラバト属	3	カワラバト(ドバト)	○					

スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ属	4	ガビチョウ				○		
		ソウシチョウ属	5	ソウシチョウ				○		
	ムクドリ科	ハッカチョウ族	6	ハッカチョウ					○	
			7	インドハッカ					○	

7種

検討種

目	科	属	No	種・亜種	留鳥	夏鳥	冬鳥	旅鳥	迷鳥	備考
チドリ目	カモメ科	カモメ属	1	モンゴルカモメ			○			2017.3.12
キツキ目	キツキ科	アカゲラ属	2	アカゲラ					1	2020.12月目撃例アリ
スズメ目	ムシクイ科	ムシクイ属	3	モウコムジセッカ				○		2011.2.20
	ヒタキ科	キビタキ属	4	キムネビタキ				○		2016.4.29

4種

* 表中、黄色枠で囲っているものについては亜種をあわせて記載しているため。赤字記載のものは今年新たに追加した種。